



東国分中だより

令和7年10月1日

NO.10

学校 HP

学校教育目標 「夢や希望を抱き、生きる力を持った生徒の育成」
～知・徳・体の調和のとれた生徒～
<https://ichikawa-school.ed.jp/ekokubun-chu/>

東国分爽風学園
市川市立東国分中学校
校長 植木 昭貴



R7年度 全国学力・学習状況調査より



毎年3年生対象に行われている「全国学力・学習状況調査」の今年度調査の結果が出ましたので本校の状況について紹介します。下の【国語】【数学】【理科】の記述は、全国の平均正答率を「100」とした場合の相対値を基に判断しており、比較対象は県（公立学校）としています。

【国語】		【数学】		【理科】		
設問数	正答率	全国比	設問数	正答率	全国比	
設問数	学校	県	全国	学校	県	
国語	14	54.0	54.0	54.3	99.4	99.4
1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	45.6	49.1	48.1	94.8	102.1
A 話すこと・聞くこと	4	53.7	53.1	53.2	100.9	99.8
B 書くこと	5	51.8	52.0	52.8	98.1	98.5
C 読むこと	3	62.0	62.5	62.3	99.5	100.3
選択式	8	64.6	64.4	63.9	101.1	100.8
短答式	2	72.8	74.7	73.6	98.9	101.5
記述式	4	22.1	23.5	25.3	87.4	92.9

【国語】(全体)県平均と比べて「±0」

- 「話す力・聞く力」：+1.1 ポイント（以下「P」）
- ▲「言葉の特徴や使い方に関する力」：-7.3P

【数学】(全体)県平均と比べて「+2.1」

- 「図形」：+4.6P
- 「データの活用」：+5.8P
- ▲「数と式」：-1.2P
- ▲「関数」：-4.1P

【理科】(全体)県平均と比べて「+1.4」 ※今年度のみ実施の調査です。



- 「生命の領域」：+12.4P
- ▲「粒子の領域」：-2.2P

【全体】 ここ3年間の本校における正答率は、国語・数学ともに高くなっています。一方で理科を含む3教科において「記述式」による正答率は県平均を大きく下回っています。（県平均との差：国語：-5.5P 数学：-2.6P 理科：-6.4P）

上記の結果は今年度3年生のものであり、学年による特徴や個人差等もあるため、この結果をもって一概に本校の状況と判断することはできませんが、正答率がここ数年向上していることはうれしいことで、要因として学校生活が落ち着いていること、生徒たちが授業に前向きに取り組んでいること、家庭学習の取組が向上していること（学校評価より）、教員が授業力の向上に努めていることなどが考えられます。一方で正答率の低いものについては今後の課題として捉えていく必要があります。特に記述式の問題については全教科に共通して正答率が低いことから、読書活動の推進や言語化力の向上など言語活動を大切にしていく必要があると捉えています。

また、これから必要とされる学力は、正解を早く正確に出すという従来の能力だけではなく、答えのない問い合わせに対して他者と協働しながら新たな価値を創造していく力ともいわれています。